

青色回転灯防犯パトロール車による日常防犯活動



【大宝学区】

■世帯数：3,815 世帯

■人 口：8,114 人

■面 積：0.899 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「自分たちのまちは自分たちで守ろう」を合言葉に犯罪、事故被害の未然防止を目的に青色回転灯を点けたパトロール車で学区内の危険箇所や不審人物・不審者の点検、地域住民への声かけ、防犯指導などを行う。
- ・パトロール車は乗る人を問わず、より多くの地域住民に運転・パトロールしてもらうことで安全への関心を高め、「連帯感」を醸成する。
- ・平成 23 年度の運行回数は 320 回（月平均 27 回）、18 団体が安定的に参加し、パトロール運行距離は延べ 2,800km。

【住民への PR 方法】

学区広報誌への掲載、団体・町内会での口こみ勧誘

【アピールポイント】

パトロール時に拡声器で放送する文章を学区発案でテープ録音して作った。また、導入後間もなく大宝小学校の朝礼で説明会を開催できた。

危険箇所の発見、点検の機会が増えたほか、団体間の連絡の機会にもなる。大宝小学校 PTA の参加により世代間の対話ができるなど、パトロール車の運行の中で、忘れかけていた人情が生で感じられるようになった。

2 きっかけ、背景

全国的に犯罪件数が増加傾向にある中、常駐交番が減少し、地域の防犯拠点が少なくなっていた。また、地域・ご近所への無関心から自主防犯意識も薄れていた。平成 17 年度に入り、熱田区防犯協会の誘いを受けて学区で検討し、様々な問題はあったが、自主防犯システム構築のチャンスと捉え青色回転灯防犯パトロール車を導入し、パトロールを実施することとした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性会、老人クラブ、更生保護女性会、各種地域団体長、小学校教頭

計約 24 人

(2) 他団体との協力

保健委員会、民生委員児童委員会、老人クラブ、女性会、PTA、更生保護女性会、少年補導委員、ボランティア団体

(3) 運営協力

パトロールの担当者を長期にわたり固定しない。運行責任の単位を個人ではなく町内会・各種団体等のチームとし、安心して参加できる工夫をしている。

4 実施のスケジュール

H17 年 四日市市・岡崎市の事例を受けて熱
3月～5月 田区防犯協会より青パト参加の提案

6月、8月 6月までに参加表明、8月に実施者
講習会開催（23 人参加）

7月～ 「学区自主防犯パトカー取扱規定」
H18 年 1月 の作成「学区連協の規約」を検討し
一部改訂、車両登録

1月 青色回転灯パトロール車申請・関係
手続

2月 熱田区4学区一斉出発式(熱田文化小
劇場)

1月～3月 分担計画作成、12 町内を4班に分け
て鍵を共有。3月に月間 13 回運行
でスタート

7月、8月 7月実施者追加講習会(44 人参加)
8月 15 団体での実施計画が完成

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 犯罪の減少に寄与しているほか、住民による「自主防犯」の実施により子どもの防犯意識向上に役立っている。
- ・ 柔軟な活動体制の構築により、青パト運行参加への抵抗感が減った。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保に苦慮したが、各種団体毎の活動項目に掲げてもらい実績報告にも役立てると説得したほか、パトロール実行中に前向きな話題をすることでその後の参加に協力的になる。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と資金の確保が課題。学区連絡協議会の年間事業運営費の中で占める割合の高い項目となっている。
- ・ マンネリ化の排除とそのための工夫が必要と考えている。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 月当たりの曜日、回数、チーム毎のクルー人数、担当者数を固定しないことが重要。(ただし月次計画書作成には配慮を要する)。
- ・ 車両管理・駐車場・集合場所などのルールをしっかりと決めておくことが重要。
- ・ 町内会、各種団体ごとに曜日や回数などの希望を聞き、調整することが重要。